



西条市立西条図書館ヤングアダルトコーナーフェア案内

# YAおすすめ本 2022年月9月 フェアテーマ

## 『世界』



このコロナ禍で旅行に行けず、ああ、こんなことならもっと海外旅行しとけばよかったと今更のように後悔している人も居ると思いますが、まだまだこの先チャンスはあります。世界って広い。案外へんなことが日本と似ていたり、びっくりするほど真逆な考えがまかり通ったり。本を見るだけでも、世界って広いと思ってもらえる。びっくりしてもらえる。そんな本をご紹介します。自由に好きなところに行けるようになったら、本の内容は本当なのか？どうぞその目で見てきてくださいね。



**西条市立西条図書館**

住所：西条市大町1590

TEL0897-56-2668

開館時間9：30a.m.~20：30p.m.

## 9月フェア『世界』おススメ本をご紹介



### 『JK、インドで常識ぶっ壊される』

熊谷 はるか 河出書房新社 2021.12 /292.5/ク/

なにも知らないまま降り立ったインド。「カレーの国」だけじゃない豊かな文化。目を輝かせて未来を語るスラムの少年少女たち…。タピオカもプリクラもない国・インドの光と影を現役女子高生が綴る。



### 『世界一くさい食べもの』

小泉 武夫 筑摩書房 2021.11 /383/ジ/

なぜくさい食べものは世の中にたくさんあるのか？ 世界一くさい魚の缶詰「シュール・ストレミング」、世界最強のチーズ「エピキュアー」…。人類の英知がつまった、くさい食べものの奥深い世界を案内する。



### 『世界のふしぎなことわざ図鑑』

北村 孝一 KADOKAWA 2021.8 /388.8/キ/

猫に小判、急がば回れ…。短い文なのに、聞く人の注意をひきつける「ことわざ」。80の日本の主なことわざを解説するとともに、内容の似ている世界のことわざをそれぞれ3つずつ集め、その国の言葉で示し、説明を付す。



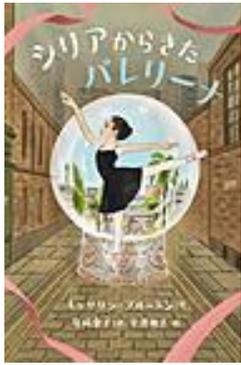
## 9月フェア『世界』おススメ本をご紹介



### 『フランスの高校生が学んでいる10人の哲学者』

シャルル・ペパン 草思社 2022.2 /130.2/¥

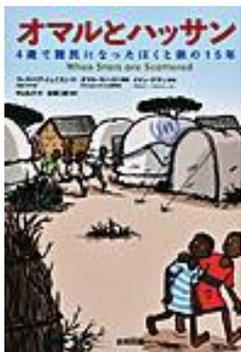
理想主義者・プラトン、現実主義者・アリストテレス、革命的哲学者・カント、過激な思想家・フロイト…。フランスの人気哲学者が、ギリシャ時代から近代までの西欧哲学者10人をコンパクトかつ通史的に



### 『シリアからきたバレリーナ』

キャサリン・ブルートン 偕成社 2022.2 /933/¥

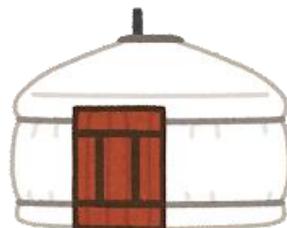
あたしは難民として生まれたわけじゃない。シリアの内戦によってアレッポの街を脱出し、イギリスにたどり着いた少女アーヤと家族の物語。ふるさとでのおだやかな暮らしや逃避行の回想をはさみながら、アーヤがバレエを通して新しい生活をきずいていく姿を描く。



### 『オマルとハッサン』

ヴィクトリア・ジェミスン 合同出版 2021.5 /369.3/¥

ソマリアで生まれたオマルは、内戦で父を殺され、母とは生き別れに。4歳のとき、まだあかちゃんだった弟のハッサンとともにケニアの難民キャンプへ…。子どもの視点から難民生活の記録を描いたグラフィック・ノベル。



## 9月フェア『世界』おススメ本をご紹介



### 『池上彰の君と考える戦争のない未来』

池上 彰 理論社 2021.5 /319.8/イ/

戦争とは何か。世界はどんな戦争を経験したのか。池上彰が戦争の変遷、戦争の種類、武器の歴史、戦争のルールや条約の歴史などを丹念に解説し、戦争をなくすためにはどうしたらいいのかを考える。



### 『ぼくはロヒンギャ難民。』

小峯 茂嗣 合同出版 2022.3 /369.38/イ/

ミャンマー軍の迫害から逃れて、隣国に避難しなければならなくなったロヒンギャの人びと。バングラデシュにある難民キャンプを訪れ、彼らから直接話を聞き、さまざまな背景や思い、難民問題解決に向けた提言などを紹介する。



### 『地理×文化×雑学で今が見える世界の国々』

かみゆ歴史編集部 朝日新聞出版 2019.9 /290/イ/

経済、宗教、自然、食べ物…人々の営みがもっと身近に! 239の国と地域を、面積や人口などの最新データ、美しい写真、トリヴィアとともにやさしく解説する。ジャケット裏に世界の地理&建造物ランキングMAPあり。

